

入院患者の転倒・転落発生率と損傷発生率

入院されている患者様に転倒・転落が発生した割合を示しています。入院中は環境の変化に加え、病気や運動機能の低下によって思いがけない転倒・転落事故が起こることは少なくありません。転倒・転落を完全に予防することは困難ですが、その発生を可能な限り防ぐためにリスクを把握し、予防に取り組む必要があります。

【当院の活動】

医療安全管理室では日々の各部署報告をもとに情報を分析し、各部署における医療事故対策に関する諸問題を検討し、適切かつ効果的な対応策を講じることを目的としています。また、入院される全患者様を対象に、転倒・転落の危険性を知る為にチェック表をご記入いただき、入院生活についてご相談を行っています。

1) 転倒・転落発生率

対象病棟： 一般病棟、回復期病棟、地域包括ケア病棟

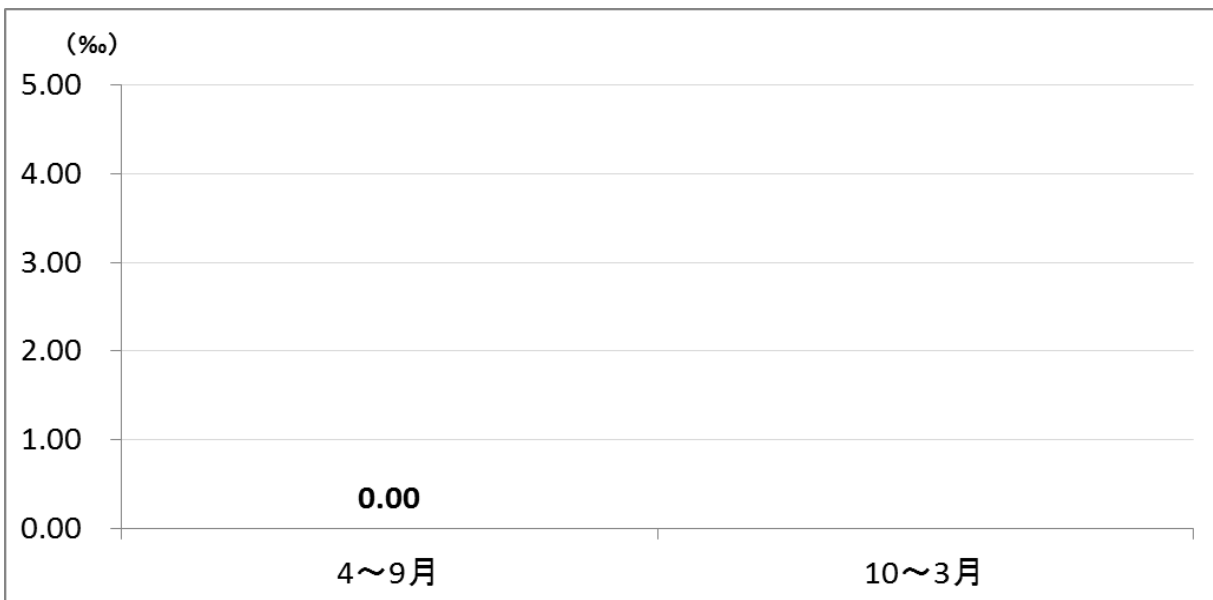
計算式：
$$\frac{\text{分子) 入院患者に発生した転倒・転落の件数}}{\text{分母) 1カ月の在院患者延べ人数}}$$

対象期間： 6カ月

データ件数:

	2022年度	
	4~9月	10~3月
分子	0	
分母	33,968	
発生率(‰)	0.00	

※転倒・転落指標の単位は計算式に1,000をかけた‰(パーミル)となります



2) 転倒・転落損傷率(レベル3b以上)

対象病棟： 一般病棟、回復期病棟、地域包括ケア病棟

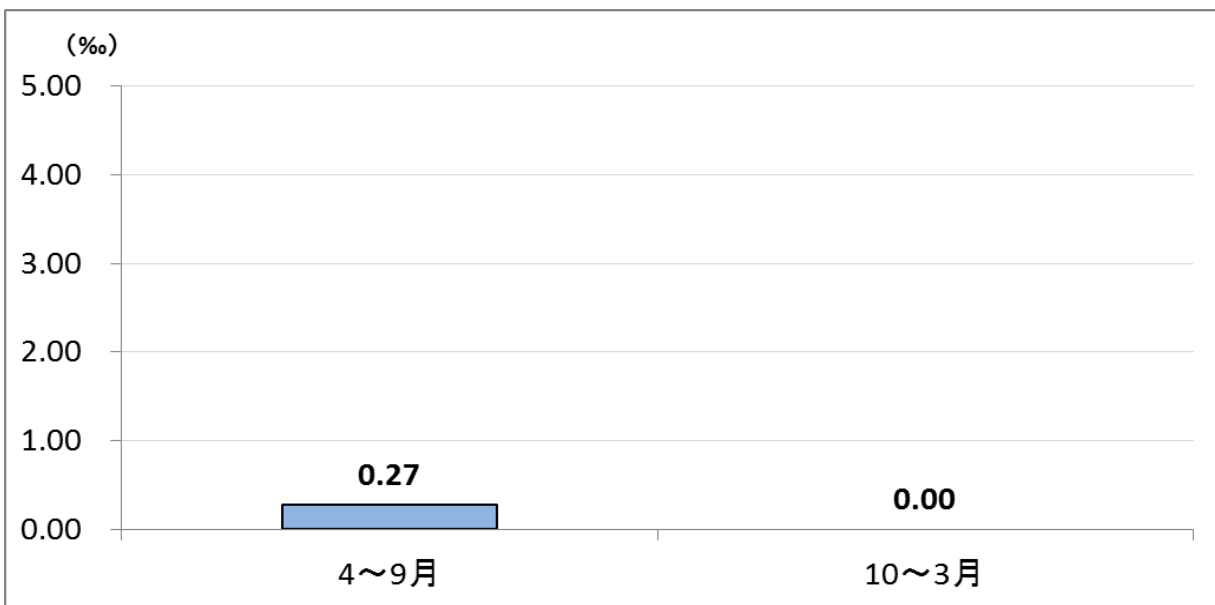
計算式：
$$\frac{\text{分子) 入院患者に発生した転倒・転落により損傷した件数 (レベル3b以上)※}}{\text{分母) 1カ月の在院患者延べ人数}}$$

対象期間： 6ヵ月

データ件数:

	2021年度	
	4～9月	10～3月
分子	10	0
分母	36,761	35,817
発生率(%)	0.27	0.00

※転倒・転落指標の単位は計算式に1,000をかけた‰(パーミル)となります



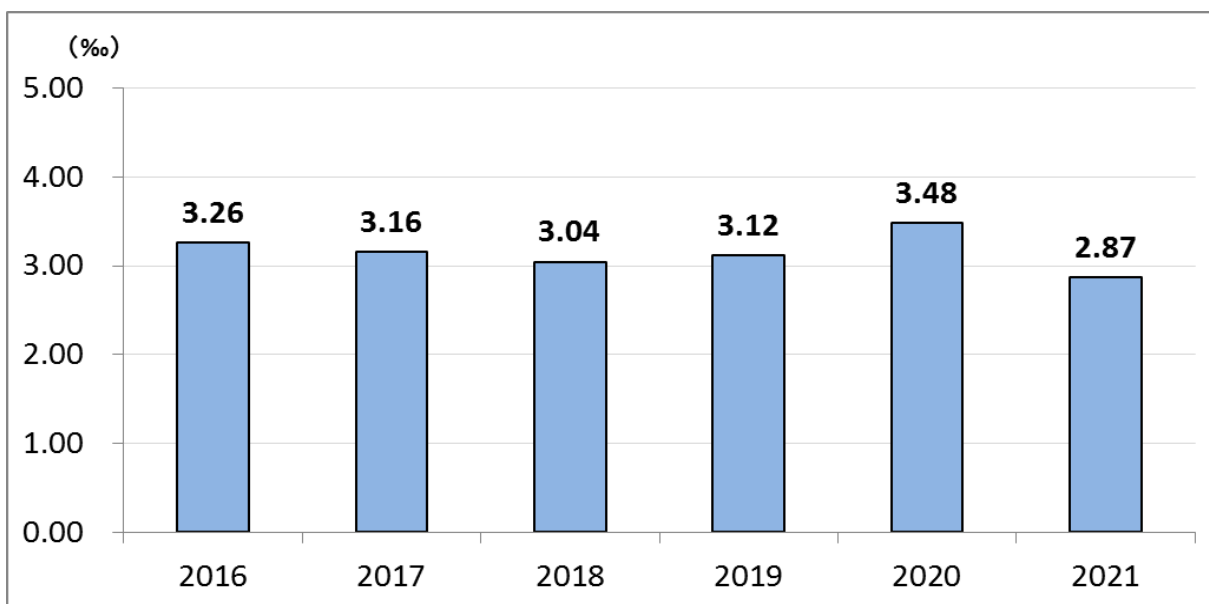
レベル	重症度	患者の状態
1	なし	患者に損傷はなかった
2	軽度	観察の強化や検査の必要性が生じた
3a	中軽度	新たな治療や処置が必要となった (打撲、擦過傷等が見られ、CT等の検査が必要となった)
3b	中軽度	新たな治療や処置が必要となった (裂傷、骨折等が見られ、縫合処置や手術が必要となった)
4	重度	生命に影響を及ぼす後遺症が残った
5	死亡	転倒・転落による損傷の結果、死亡に至った

●年度別比較

1) 転棟・転落発生率

データ件数:

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
分子	247	252	242	246	243	208
分母	75,671	79,734	79,493	78,819	69,750	72,578
発生率(‰)	3.26	3.16	3.04	3.12	3.48	2.87



2) 転棟・転落損傷率(レベル3b以上)

データ件数:

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
分子	2	3	3	10	7	10
分母	75,671	79,734	79,493	78,819	69,750	72,578
発生率(‰)	0.03	0.04	0.04	0.13	0.10	0.14

